

**IOSCO の報告書は、世界の投資ファンド業界に関する新しいグローバルなデータを提供する**

証券監督者国際機構（IOSCO）の代表理事会は、本日、「[投資ファンド統計報告書](#)」を公表した。本報告書は、世界の投資ファンド業界と、この業界がグローバルな金融システムにもたらす潜在的なシステミック・リスクについて新たな洞察を提供するものである。

IOSCO は、2010 年以降、IOSCO ヘッジファンドサーベイという形で隔年のデータ収集演習を実施してきた。しかし、今回の報告書の対象範囲は、ヘッジファンドを超えて、オープン・エンド型ファンドとクローズド・エンド型ファンドの業界の分析も初めて含んでいる。これは、IOSCO メンバーからの包括的な監督データの収集に基づいている。

今後、この報告書は、投資ファンドデータの定期的な収集と分析を促進することを目的とした年次演習となり、当局がグローバルな投資ファンドセクターにおける取引活動、レバレッジ、流動性管理、市場及び資金調達に関する情報を共有し、傾向を観察することを可能とする。

今回の報告書は初版である。データに基づく多くのモニタリング活動と同様、傾向は重要であり、データ収集の目的は、これらの傾向を長期間にわたってモニタリングすることである。ただし、この初期段階においても、報告書のデータから以下のメッセージを読み取ることができる。

- 全体として、オープン・エンド型ファンドには、どの指標においても、大きなレバレッジはかかっていない。
- 「平時」においては、オープン・エンド型ファンドのポートフォリオの流動性は、投資家に提供される流動性に合わせて管理されている。
- 対照的に、ヘッジファンドは、投資家に提供される流動性をはるかに上回るポートフォリオの流動性を有しており、強固な流動性管理手続きを示している。
- ヘッジファンドの総レバレッジは増加しているものの、大半の銀行で見られるようなレバレッジの水準には至っていない。
- クローズド・エンド型のファンドでは、流動性管理の問題は他のタイプのファンドと異なり、レバレッジの水準にはあまり意味はない。
- ただし、現在のレバレッジ指標は、プライベート・エクイティ（PE）ファンドが採用しているレバレッジを適切に把握していない。PE はレバレッジド・ファイナンスを多用しており、そのレバレッジをファンド自身のバランスシートではなく、投資対象のバランスシートに置く傾向が強い。

(Note to the Editor は省略)

(以 上)